

1. 主催者・共催者名 アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)	
2. タイトル 気候変動に対応するための戦略—知見の創出及び学界と政策の連係に基づいて	
3. 目的・概要 気候変動とその影響に関する研究を推進するにおいて実践可能な研究成果を得るためには共同出資、パートナーシップの確立、戦略的ネットワーキングなどにおいて新しい取り組みが必要となってくる。科学者及び政策立案者のみならず、あらゆるステークホルダーを巻き込んだ「知見の創出」には何が必要かを、APN 加盟国からのプレゼンテーション及びパネルディスカッションを通じて議論する。	
4. アジェンダ	
開会のご挨拶	
13:00-13:02	田中聡志 環境省大臣官房審議官
第1部 イン트로ダクション：APN 紹介	
13:02-13:04	サイドイベント及び講演者の紹介 リンダ A. ステーブンソン、APN 事務局
13:04-13:12	APN の視点：気候変動 竹本 明生、APN 事務局
第2部 APN 加盟国からの発表	
13:12-14:02	タイ スチポーン・チットミトラパプ タイ国立研究評議会 タイ モンチップ S. タブカノン タイ上院上級顧問 スリランカ スニマル・ジャヤツンガ スリランカ気候変動事務局 ブータン カルマ・ツェリング ブータン環境省 日本 藤野純一 国立環境研究所
第3部 パネルディスカッション	
14:02-14:06	A. T. シェイク (CDKN) (Dr. A.T. Sheikh) 近藤洋輝 (MEXT/RESTEC)
14:06-14:20	パネルディスカッション
14:20-14:26	コメント：竹本明生及びパネリスト (U. ツェワング、K. ツェリング、藤野純一、S. チットミトラパプ、野本 卓也、S. ジャヤツンガ)
14:26-14:30	まとめ：リンダ A. ステーブンソン
5. 発表・議事の概要 APN の概要に関する紹介の後、タイ、スリランカ、ブータン及び日本より、各国が実施している環境研究プログラムや資金及び技術面の課題について紹介があった。タイからは、	

気候変研究を推進するための戦略が策定されたことや、国立研究協議会（National Research Council of Thailand, NRCT）が、主として国内研究者向けの気候変動研究プログラムを開始したことが紹介された。

一方、スリランカからは、効率的な研究のための基盤強化や能力開発へ向けたさらなる支援の必要性について述べた。ブータンからは、Gross National Happiness（国民総幸福量）を念頭に温暖化ガスの排出量削減を目指すなか、海外からの支援が必須であることが紹介された。両国における国内の環境研究のための資金は全く不十分であることから、APNの資金・技術支援や研究者ネットワークを利用することは環境政策の推進にとって極めて有効であること、今後もAPNを通じて研究プロジェクトや若手研究者向けのトレーニングコースを積極的に実施していきたい、との発言があった。

日本からは、グリーン経済、グリーンコミュニティ及びグリーン環境の実現をテーマとした、国立環境研究所とマレーシアの共同研究について発表があった。

最後にAPNの成果は、アジア太平洋のみならず、アフリカなど世界の他の地域の環境政策にとっても重要であることから、世界に向けた発信を強化してほしいとの要望が寄せられた。

6. 写真

